

東経連ビジネスセンター パリエアショー2019 出展報告

2019年6月17日(月)～23日(日)、パリ市郊外のル・ブルジェ空港にて開催されたParis International Air Showに、東北の企業・研究機関と共に初めて東北ブースとして出展しましたので、その概要について以下の通り報告いたします。



1. パリエアショー2019

パリエアショーは1909年から続いている世界最大の航空宇宙産業の展示会です。

現在では奇数年の隔年開催となっており、本年は第53回となりましたが、世界49カ国から2,453社が出展しました。日本からは、日本航空宇宙工業会のパビリオンに大手企業11社、東京都(TMAN)パビリオン8社、あいち・なごやパビリオン9社、東北ブース5社など、41社が出展(事務局含む)しました。

屋外展示場には140機の飛行機が展示され、メインイベントとして毎日12時を過ぎたころから終了間際まで、飛行機のデモフライトが行われました。日本からは、三菱スペースジェットやホンダジェット、自衛隊の輸送機P-1、C-2が展示されました。



ホンダジェット

主催者より発表された、今回の出展者数等は下記のとおりです。前回(2017年)と比較すると、出展社数は3%増、ビジター数はほぼ同数字となっています。

・出展社数	2,453社	(49カ国)	・展示スペース	125,000㎡
・ビジター数	316,470人		屋内ブース	52,000㎡
ビジネス	139,840人	(185カ国)	シャレー	35,000㎡
パブリック	176,630人		屋外展示場	38,000㎡
			・展示航空機数	140機

主な国別の出展社数

①フランス	1,207	②米国	360	③ドイツ	141	④イタリア	141	⑤UK	103
⑥ベルギー	83	⑦日本	41	⑧スペイン	40	⑨スイス	31	⑩オランダ	29
⑪ロシア	28	⑫メキシコ	24	⑬カナダ	19	⑭中国	19	⑮韓国	19
⑯マレーシア	16	⑰ブラジル	16	⑱インド	10	⑲チェコ	10	⑳イスラエル	9

国別出展社数の順位は、欧米諸国が上位に並びますが、日本は41社で第7位と日本企業の航空機産業への興味の大きさが伺えます。

事前に専門家の方から、「航空機産業への参入にはQCD（Quality:品質、Cost:価格、Delivery:納期）を長期間維持できるのであれば会社の規模は関係ない」、と言われていましたが、地元フランスの小さな金属加工部品、樹脂部品等のメーカーも仏航空機メーカーエアバス社向けのサプライヤー（間接）として出展しており、民間航空機メーカーが存在するフランスの優位性を感じました。

エアショー初日の17日、経済産業省とフランス民間航空総局（DAGC）が、日本企業と仏大手企業サフラン社の民間航空機産業での協力強化について合意し、会場で署名式を行いました。経済産業省が日本企業の航空機産業への進出を支援し、サフラン社はこれらの企業が持つ技術の実用化などを進めるとのことです。



仏大手企業サフランのブース

また、三菱航空機は同じく17日、エアショー会場で、「MRJ（三菱リージョナルジェット）」から改称した「三菱スペースジェット（Mitsubishi SpaceJet）」の報道関係者向け説明会を開きました。従来「MRJ90」と呼んでいた「SpaceJet M90」の量産機納入開始は、これまで通り2020年中頃としています。M90をベースに新設計する70席クラスの「SpaceJet M100」の市場投入は、2023年を目指すとのことです。



三菱航空機が改名したスペースジェット

2. 東北ブースの出展と活動状況

航空機産業は世界の経済成長や人口増加により、航空機輸送需要は年率4.5%の増加が見込まれ、20年後には稼働航空機数が倍増すると予測されるなど、持続的な成長が期待されています。

東経連ビジネスセンターでは、航空機産業への参入を目指す東北の中小企業が増加してる背景に鑑み、海外の最先端の技術に触れ、国内外の大手企業とのパイプを作り商談の機会を作りたいとの意向を受け、世界最大の展示会であるパリエアショーへの東北ブースの出展を決めました。



東北ブースの様子

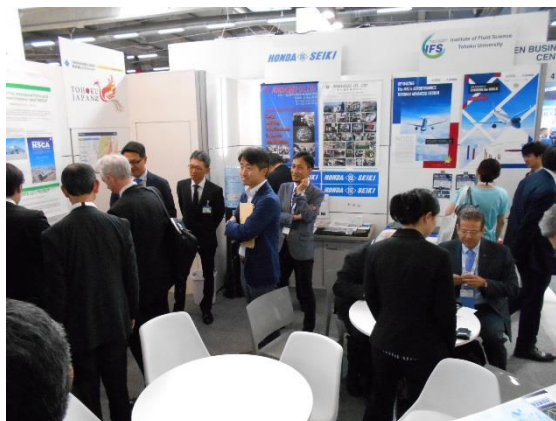
出展社出展内容

出展社名	人数	展示内容	展示方法
アキモク鉄工(株)	2名	ナノバブル塩分洗浄機、治具	動画放映 ポスター
東北大学 流体科学研究所	4名	三菱航空機との機体構造研究開発	ポスター
Niigata Sky Project (新潟市)	2名	NSCA(共同工場)、 新潟エアロスペース(中核企業)	ポスター
(株)遠藤製作所	3名	鍛造チタンブリスク(エンジン部品)	サンプル部品展示 ポスター
本田精機(株)	2名	アルミ加工部品、チタン加工部品	サンプル部品展示 ポスター

(各社夫々、カタログ・パンフレットを配布。)



商談風景



商談風景

各社の展示に加え、東北ブースを紹介するパンフレットを500部作成(A5判8ページ)し、配布しました。

また、ブースに55インチのモニターを設置し、出展各社から提供いただいたPR動画を連続放映しました。

東北観光推進機構からは、春・夏・秋・冬の東北の観光動画をお借りし、ビジネスデーは全体の10%程度、パブリックデーは全体の90%程度、放映し観光地としての東北をアピールしました。

さらに、パブリックデーの配布を主目的として、東北観光推進機構より東北ツーリストマップ(英文)300部を提供いただきました。

出展各社には、ブース展示に加え、マッチングサービスを活用し事前に商談のアポイントを取得する等して、積極的に活動いただきました。



出展企業成果（4社合計）

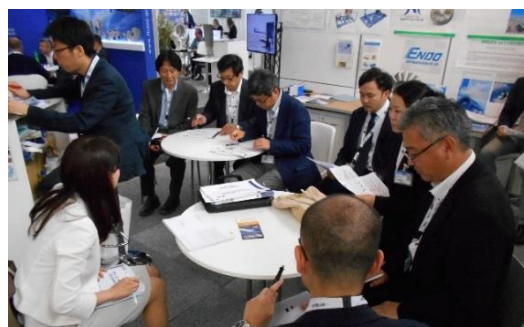
面談件数	商談件数	継続案件数		アライアンスの 可能性件数
		外国企業	日本企業	
195	72	31	32	19

上記は、企業毎に4日間毎日集計・申告いただいた数字を合算したもので、予想以上の継続案件数を獲得いただいています。今後のフォローが重要になりますが、東経連ビジネスセンターでも IHI の技監を務められた落合宏行氏を新たにコーディネーターに迎えるなど、支援体制の強化を進めてまいります。

事務局交流、情報収集

経済産業省航空機武器宇宙産業課の畑田課長や、(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)会長のブース訪問を受けるなど、東経連が航空機産業支援を行う機関であることが日本の大手企業や関係先に認知されました。また、SJAC や東京都との次回海外展示会に向けての連携体制や関東経済産業局とのネットワークを構築することができました。

東北経済産業局の手配で、JETRO パリ事務所より欧州航空機産業に関するセミナーを東北ブース内で実施いただきました。フランスの関連企業にヒアリングを行った結果を踏まえてのものであり、今後の欧州・フランス企業とのパートナーシップ確立の検討を行うにあたり、有益な情報でした。



JETRO パリ事務所による 欧州航空機産業調査セミナー
(於:東北ブース)

パブリックデー対応

東北観光推進を目的として、55 インチのモニターで、東北観光推進機構が作成した東北の四季の動画を随時放映しました。高品質で美しい映像であったこと、55 インチの大画面で放映を行ったことより、多くの来場者にインパクトを与えることができました。

特に、パブリックデーには、観光プロモーションを行ったのは東北ブースのみであったこともあり、日本訪問経験がある等、日本に興味を持っている来場者の多くがブースに訪れ、東北観光推進機構より提供いただいた東北ツーリストマップは300部全て配布しました。

東京・京都・大阪の知名度は高いものの、東北の知名度は低いのが実態で、今回の活動により僅かながら東北のインバウンド拡大に貢献できたのではないかと考えています。

以上（東経連ビジネスセンター／芦谷）